

1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましよう。  
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましよう。

（ ）月 日 曜日

# 白谷雲水峽

神山小学校 五年 赤司 弘貴

ぼくは、宿泊学習で白谷雲水峽から太鼓岩  
まで登山をしました。

とち<sup>ヤ</sup>うで、かイドさんが滝や、木・植物

のクイズや説明をしてくれたので、この木は

いっなんのために使われていたのかがよく分

かって勉強になりました。例えば、この木は

なんという名前でいつ何に使われていたでし

ょうという問題が出ました。答えは、ヒメシ

ヤラという木で、江戸時代、クーラのかわり

に使われていたそうです。

登山中には、鹿やさるとそうぐうして、み

んな、

「おお鹿だ。」

とおびろいていました。

少し雨がふ<sup>ッ</sup>ていて、川も増水しそうにな

っていたけれどがんばりました。

ラスト五百メートルくらいは、六十度くら

いのけいし、道がツグきました。

けど、登り

No. 1

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましよう。  
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましよう。

(不許複製)



- 1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。
- 2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

( ) 月 日 曜日

きりました。  
 ぶくらはぎがパンパンになっ  
 けて、がんばりました。ガイド  
 さんに、  
 「なんで太鼓岩は太鼓岩とい  
 うんですか？」  
 と聞いたら、  
 「たたくとポンポンとなるか  
 らだよ。」  
 と教えてくれました。教えて  
 もらったように、  
 岩をたたいてみたら一部だけ  
 ポンポンポ  
 ンとなりました。

太鼓岩から見た景色は、絶景  
 でした。

下山では、ユケから出ている  
 水を飲みまし  
 た。ガイドさんが、  
 「水には硬水と軟水があっ  
 て、屋久島の水は  
 どちらかというところ、軟水  
 だよ。」  
 とい人が多んだよ。  
 と教えてくれました。ぼくは、  
 「言われてみるよ。」とだけ  
 甘いなあ。」  
 と感じました。  
 そして、無事に登山が終了し  
 ました。  
 ぼくは、もう一回行きたいな  
 あと思ました。

No. 2

- 3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。
- 4 書き終わったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)

